

提出日 2011年10月9日

氏名 Esser 知都

筑波大学主催第一回日独通訳セミナー報告書

以下のとおりセミナー受講の報告を致します。

1. 所属

ドイツ・ハイデルベルク大学会議通訳修士課程

2. セミナー名

日独通訳合宿2011

3. 受講場所

Heinrich Pesch Haus・Katholische Akademie Rhein-Neckar

Frankenthaler Str. 22 67059 Ludwigshafen (ドイツ)

4. 受講期間

2011年10月1日(土) 13:30～2011年10月3日(月) 12:00

総合責任者 相澤啓一
筑波大学・大学院人文社会科学研究所・教授
ボン事務所運営委員

5. 参加者人数

13名

6. セミナー内容

- 1) 参加者各自が任意のテーマで準備してきたスピーチの発表
(独語・日本語)
- 2) 参加者によるスピーチの逐次通訳
- 3) 通訳内容に関する話し合い
- 4) 実際に観察される誤訳／改善案などを議事録に記録

7. セミナー内容の概要と感想

ドイツ国内外で活躍するプロの日独通訳者およびドイツ・ハイデルベルク大学会議通訳修士課程の学生を中心とした、3日間の日独通訳セミナーが開催された。主な目的は、普段とは異なった環境で集中的に学ぶこと、また通訳者にとって重要なネットワークづくりであった。参加者の一部は初対面であったにも関わらず、すぐに打ち解けて和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく集中的に学ぶことができた。

セミナーの内容は、参加者全員が各自用意してきたスピーチを行い、それを他の参加者が逐次通訳し、さらに通訳の内容に関して全員で話し合い、改善案を出していく、というものであった。テーマに関しては特に規定はなく、各自が興味を抱いているテーマに関して話をした。スピーチの内容は、日常生活になじみがありながらも非常に多くの専門用語が登場するビールの醸造法に関するもの、普段はあまり接することのない、義肢の種類や機能に関する医学的な内容のもの、さらには異文化理解に関する抽象的な内容のスピーチなど、実に多岐にわたっていた。各自が自分にとってこだわりのあるテーマについて話したため、スピーチの内容自体も「通訳しがいのある」メッセージ性の強いものが多かった。

通訳するための準備資料として、参加者全員が自分のテーマに関するレジュメを事前に提出した。その際に読み上げ原稿の用意に関しては特に指示がなかったため、話者によっては原稿を準備資料として提供し、スピーチの際も同じ原稿を読み上げる者、箇条書きのレジュメを提出し当日は原稿を読み上げる者、箇条書きのレジュメを事前に提出しフリースピーチを行う者、また参加者によってはキーワードのみ予め告知しておき、話し始める直前にスピーチの枠組みに関する説明をする、というパターンもあった。その結果、実際に現場で通訳するシチュエーションにより近い状況を作り出すことができたように思う。通訳養成の場に欠かすことのできないのが、フィードバックである。誤訳やずれが生じた際に、それを指摘し、なぜそのようなミスが生じたのか分析することによって、改善につなげることができる。また、その場で指摘されたことを書きとめておき、後にその内容を繰り返し読み返すことにより、学習効果が高まる。その目的から、今回のセミナーでも、通訳の内容に関する口頭でのフィードバックに加え、そのおおまかな内容をスピーチ毎にまとめ、書面で残した。今回セミナーのリーダー役を務めてくださった相澤啓一教授がいうところの「誤訳データベース」である。合宿終了後も参加者全員で集積された情報をオンライン上で共有し、さらに改善点があれば付け加えていく、というやり方方法を選択した。

今回の合宿を終えて実感したのが、いつもとは異なった環境で新しいメンバーと共に学ぶことによって、新たな刺激を受け、さらにモチベーションを高めることができた、ということである。普段、実践的な内容の授業をこなしているものの、やはり実際の仕事としての通訳を経験することの少ない学生である立場の者にとって、学生同士での勉強会では得られないプロの通訳者の視点を感じることができた意義は大きい。さらに、普段は「決められた時間内に正しく訳す」ことのみに関心を取られ過ぎ見過ごしがちな点—聞き手にとってわかりやすいか

どうか、スピーカーの言いたいことを正しくとらえロジックを変えずに伝えられているか、という通訳の本質的な面に改めて目を向けさせられた。そういった意味で、いわば大学以外の「外からの刺激」を受けられたことは本当によかったと思う。また、授業では忘れがちな、通訳することの楽しさを再発見できた。2日目などは、食事時間をはさんで朝の9時から夜の9時過ぎまでという非常にハードなスケジュールであったにも関わらず、あっという間に時間が過ぎ去っていった。付け加えておくと、四六時中真面目な顔をしていたわけではなく、真面目な議論と同じくらい笑いも絶えない、非常に楽しい合宿であった。参加者の中には笑いすぎて腹筋が筋肉痛になった者さえいたほどである。

今回の反省点としては、参加者全員のスピーチを同様の時間配分で取り上げる事が出来なかった点が挙げられる。また、技術的に可能であれば、同時通訳の練習も合宿に取り入れる事ができれば、さらに充実した内容になるのではないかと思う。

以上

